

## 第1回四日市市制施行120周年記念事業企画委員会 議事録

- 日 時 平成28年11月9日(水) 午後5時～7時
- 場 所 四日市市役所 本庁舎11F職員研修室
- 出席者 委員19名  
小林慶太郎委員、伊藤薫委員、水谷晴香委員、平田岳志委員、堀田正仁委員、林竜二委員、数馬桂子委員、久安典之委員、藤井健司委員、池田汐里委員、袴田亜樹委員、山内満委員、越野雅代委員、柳川平和委員、佐藤司委員、脇内一仁委員、辻実久委員、安藤敦子委員、曾田晋太郎委員
- 事務局  
田中俊行市長、館英次政策推進部長、荒木秀訓政策推進課長、政策推進課 小川喬
- 傍聴者 2名
- 議 事
1. 市長あいさつ
  2. 委嘱状の交付
  3. 委員長の選出
  4. 120周年記念事業について
- 議事内容
1. 市長あいさつ  
本市が平成29年8月1日に市制施行120周年を迎えるにあたり、来し方120年を振り返り、新たな歴史の第1歩を踏み出すため、記念事業を実施する。皆さんには、その記念事業の企画委員として、意義深い記念事業となるよう、自由闊達にアイデアやご意見をいただきたい。
  2. 委嘱状の交付  
市長より各委員へ委嘱状を交付
  3. 委員長の選出  
小林慶太郎委員が委員長として選出される
  4. 120周年記念事業について
- シンボルマークについて
- A委員：シンボル・マークはそれ自体が公募すると広報になる。公募せず、市からの提案となった経緯を教えてほしい。
- 事務局：公募についても検討したが、こにゅうどうくんを広く使っていきたいとの思いから、こにゅうどうくんをデザインしている業者へ依頼した。

B委員：提示されたデザインの中で決めるのであれば、採決をとったらどうか。赤はコンビナートの赤い炎のイメージがあり、私は緑がいい。

委員長：こにゅうどうくんを使うことが前提になるとこの4案というのが市の立場である。

C委員：わたしは4番の3色がいい。ピンバッチなどであれば緑一色よりも色がたくさんあるほうが映える。

D委員：ピンバッチなどを考えると私も4番がいい。

E委員：スーツでも目立つ色ということで4番がいい。

(B委員：所用により退席)

F委員：内容を盛り込みすぎているのではないか。

委員長：例えばピンバッジは簡素なデザインで、他のものは違うデザイン等、アレンジすることも可能か？

事務局：可能である。

G委員：私も4番がいい。四日市には海山があり、色のイメージに合っている。

委員長：前回の継続性を考えるとこの色がいいのではという意見である。

H委員：いかにも行政が作った感じがするため、デザインを柔らかくしたほうがよいのではないか。

LINE スタンプなど若い人たちが使うようなものがよい。

D委員：学生目線ではこにゅうどうくんが馴染みのあるキャラクターで好かれている。

I委員：大きなトートバック等、市内はもとよりその帰りにもアピールになるものがよい。

J委員：Yという文字があって4番がいい。切手シールなどで外へ発信するのもいい。

C委員：ばんこのマグカップもいい。

E委員：こにゅうどうくんのマグカップはあるが120バージョンがあってもいいと思う。その都度記念のものを使っていくのはいい。

H委員：若者向けのグッズとして手首につけるゴムブレスを提案する。

F委員：グッズを作るのはどういった目的か？内輪で使うだけならばコストをかけるのはもったいない。他県へのPRであるならばその視点がほしい。

事務局：111年周年では、販売したグッズの他、とにかく周知を目的に配ったものもある。今日の意見を受け、LINEスタンプや切手等、外向けのPRができるものを考えたい。

E委員：120周年を知らずに終わってしまう市民もいるだろう。外も大切だが中も大切。

委員長：ひとつのきっかけにシンボル・マークがなればよいという事務局の思いである。まずはシンボル・マークを決め、そのうえで用途を考え、その後いろんなアイデアを出しながらさらなる発展を考えていく。

K委員：四日市のいいイメージを発信するという意味でも4番。微修正がきくのであれば120が切れている感じを直したほうがいい。このシンボル・マークを企業でも名刺などに使えるとよい。

L委員：4番がよい。若者への発信ではTwitter、インスタグラムなどのアイコンにしたほうが広まるだろう。国体やインターハイもあるということで、スポーツ関係にも広めていければいい。

M委員：シンボル・マークには、市外や市民にPRといった意味と普遍的なシンボルとしての意味がある。これを見て「この電車は何だろう」と知らない人が興味を持ってもらう存在でもある。今回のように2つ3つぐらい名物を入れるのはすごくいい。グッズはこにゅうどうくん押しで、

紙やメディアはシンボル・マークというのがいいのではないか。シンボル・マークをそのままグッズで使うことにこだわらなくてもいいのではないか。

N委員：個人的には4番。調和、結合といった意味でいいと思う。趣旨にもある「飛躍」を活かし、動きのあるものもいいのではと思った。

H委員：市外の人が見てこれをお茶とすぐ分かるだろうか。もう少しわかりやすい形もいい。シンボルなのでシンプルなものもよい。

E委員：急須と一緒にしたらお茶に見えないか。

D委員：とんてきやお茶などこれからのばしていきたいものを入れてもいい。土鍋でなくとんてきではどうか。

委員長：意見としてまとめてもらえればいいと思う。

A委員：デザイナーの判断に委ねなければならないが、111周年のシンボル・マークデザインとテストが同じに感じる。例えば、他のデザインとして120が大きくこにゆうどうくん抜きのものでアイデアを募るのもいいのではないか。

委員長：先ほどご意見があったように、場面によって違ってもいいし、第1期、2期のように変わっていてもいいのではないか。

事務局：修正できるところは修正する。多く賛同をいただいた4番を基本に考えていきたい。今日いただいたヒントを参考にグッズに応じたデザインを考えていきたい。

#### ●コンセプトについて

委員長：120年について、キャッチコピーは公募で決まっているので、あとは120年をどう迎えるかという思いを出し合い、それを市で集約する形としたい。

A委員：単年で終わる事業ではなく、今後につながる種になるような企画ができればいい。施設整備はそれをきっかけに使われていくだろうし、このときに始まった、これにつながっているといったものができればと思う。

委員長：111年のときに市民が提案した事業で、それが市民活動として根付いて今の文化になっているところはある程度ある。そこで未来への種をここでまいていこうということだと思う。シティの市であり市場の市であり次の第一歩の一。111周年をきっかけにスタートしたものはある。2度目の還暦にそういうきっかけになっていけばいい。

F委員：自分自身も周りの人間も当時の111年の記憶がなく、今回はみんなに知ってもらいたいという思いがある。なるべくたくさんの方がお祝いできるような企画ができればいい。例えば広報で120年に限ってレイアウトを変えるとか目立つようにしてもらえるといい。

事務局：考えさせてもらおう。表紙などを120年の色にする等。

J委員：そのときに何があったかということにフューチャーすれば、それにフォーカスするのもいい。

委員長：明治30年に四日市がどんなまちだったのか。どうしても四日市は古いモノを壊して新陳代謝をよくやってきたので過去が見えなくなっているかもしれない。

D委員：見えるものは後々残る。イベントも大事だが未来発信で考えていきたい。

E委員：こにゆうどうくんの家族を増やすといいと思う。

J委員：100年もあり111年もあり120年。これを誰に向かっているのか。市民のお祭りにした

いのか、外へ発信したいのか、市の思いはどこにあるのか。

事務局：地方創生。交流人口が増えると、それがひいては定住人口につながっていく。住みやすいまちであるが本市はPRが下手であった。外へ向かってPRするにも市民が実は四日市のことを知らないというところもある。外に向かってプロモーションというのがあるが、その前に市民が知る必要がある。

J委員：来年には、沼波弄山生誕300年を迎えるが、過去を発信しても歴史で終わってしまうため100年先に向けて発信をしたいと思っている。どこの市も人口減の危機である。そこで何とか盛り上げようということで、単なるお祭り騒ぎだけにしないでほしい。

C委員：四日市は昔から文化不毛のまちと言われている。昔からあるものを掘り起こすというのをコンセプトに入れていいと思う。市場や鶴の森神社の門などを知ってもらうための掘り起こしをぜひ入れてほしい。

委員長：原点を知ったうえで祝う。それで胸を張ってPRをして外から人を呼び込むという市の思いも見えてきたような気がする。

O委員：あのときから四日市が変わったといえるようなもの、ハードも含めて核になるものを求めて関係のイベントをやっていくことが必要だと思う。一過性で終わってしまうと単なるお祭り騒ぎで終わるため、継続を考えた企画になるとよい。

委員長：120年が転機になって変わっていくということもコンセプトだと思う。

事務局：120年にあわせて準備をしたハードはないが、国体が5年後に開催されるため、スポーツ施設整備の整備がされる。また、近鉄の駅西広場の計画づくりも始めているところである。120年とは別の話かもしれないが、こういう話があるということはこれを契機にアピールしていきたい。

委員長：予定の時間をまわったが、今日の意見をひとつにまとめるということはない。帰ってから思い起こすこともあると思うので、1週間ぐらいをめぐりに事務局へ意見を寄せてもらいたい。

以上